



子ども食堂アンケート実施結果

神奈川県福祉子どもみらい局
子どもみらい部次世代育成課

1 調査の目的

県内の子ども食堂のコロナ禍における活動状況、各団体との連携状況及び必要とする支援等を把握し、今後の本県の取組みの参考とすることを目的とする。

2 調査対象 88者

- ① 神奈川県子ども食堂応援事業協力金の申請者
- ② 子どもの居場所ポータルサイト「かながわスマイルテーブル」掲載団体のうち、子ども食堂を運営する①以外の者

3 調査期間

令和3年1月14日～2月3日

4 調査方法

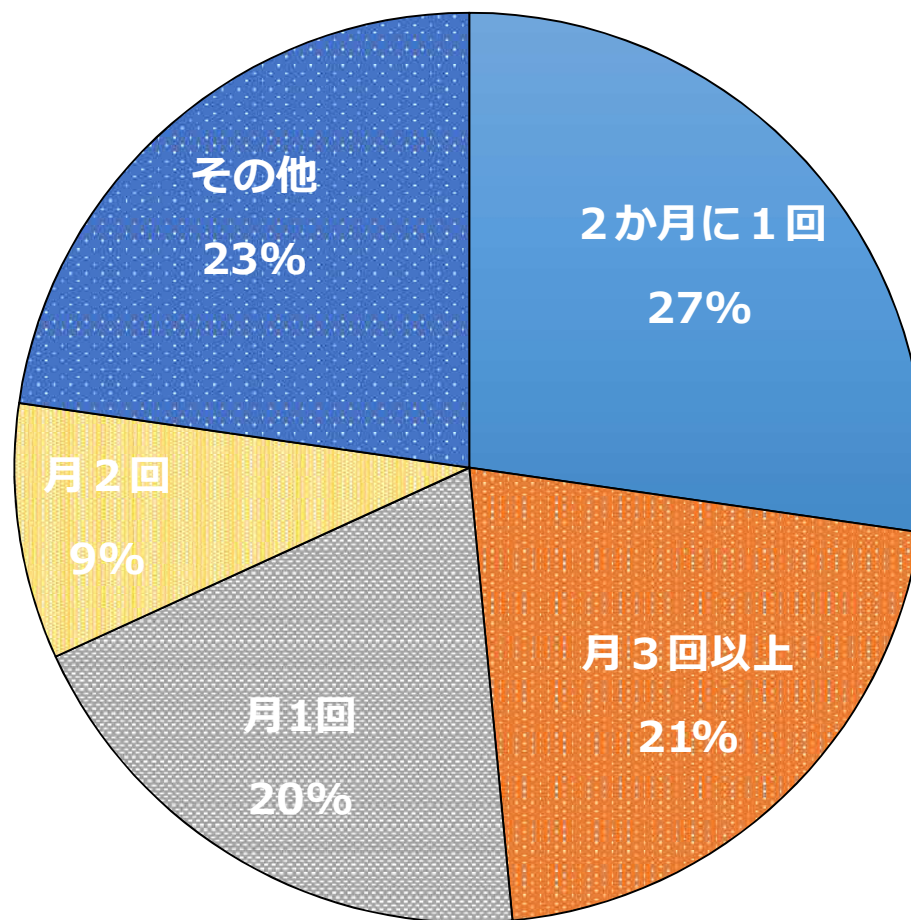
e-kanagawa電子申請システム ※システム上での回答が困難な場合は調査票を郵送

5 回答数

66者 (回答率75%)

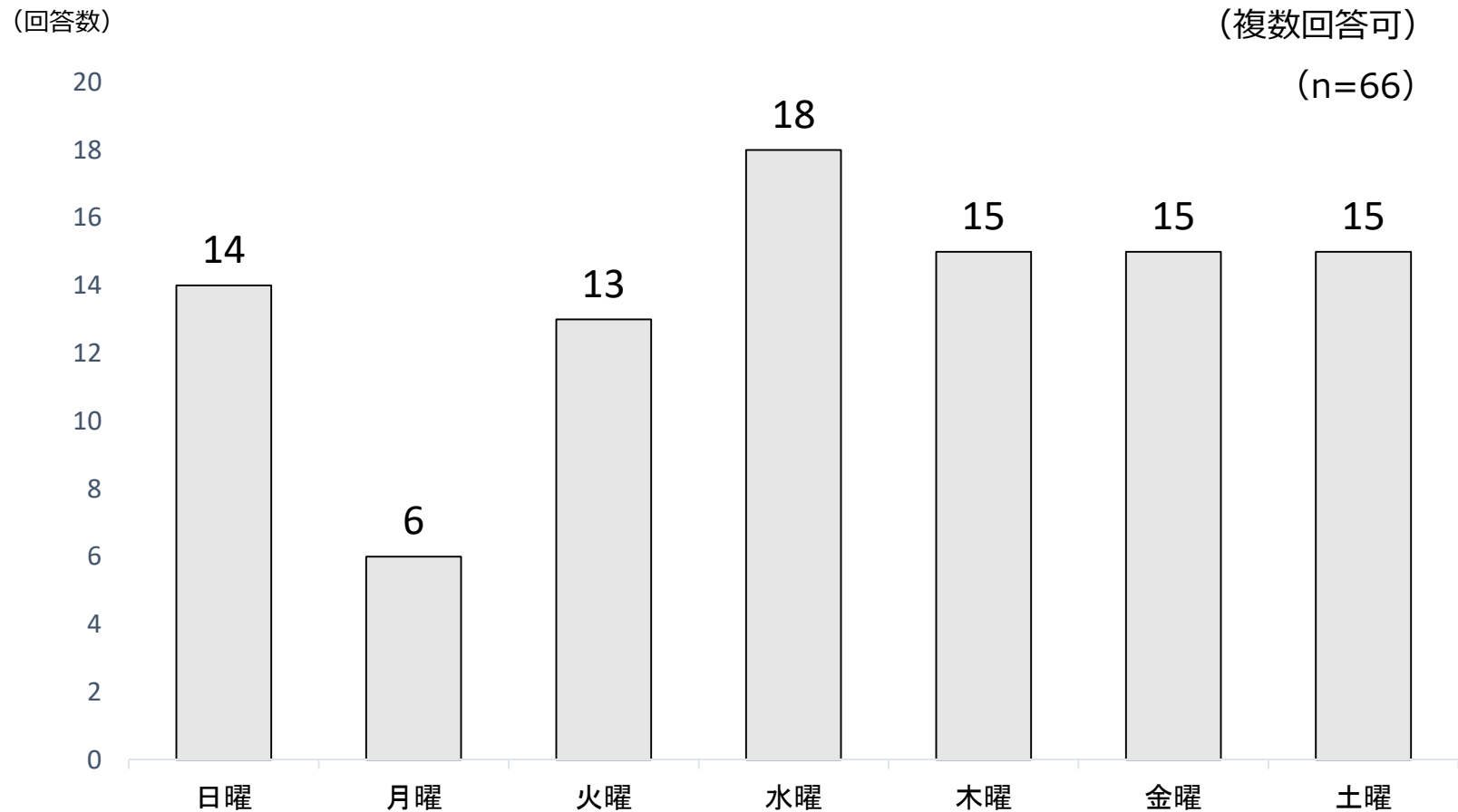
1 基本データ

◇ 子ども食堂の開催頻度を教えてください。

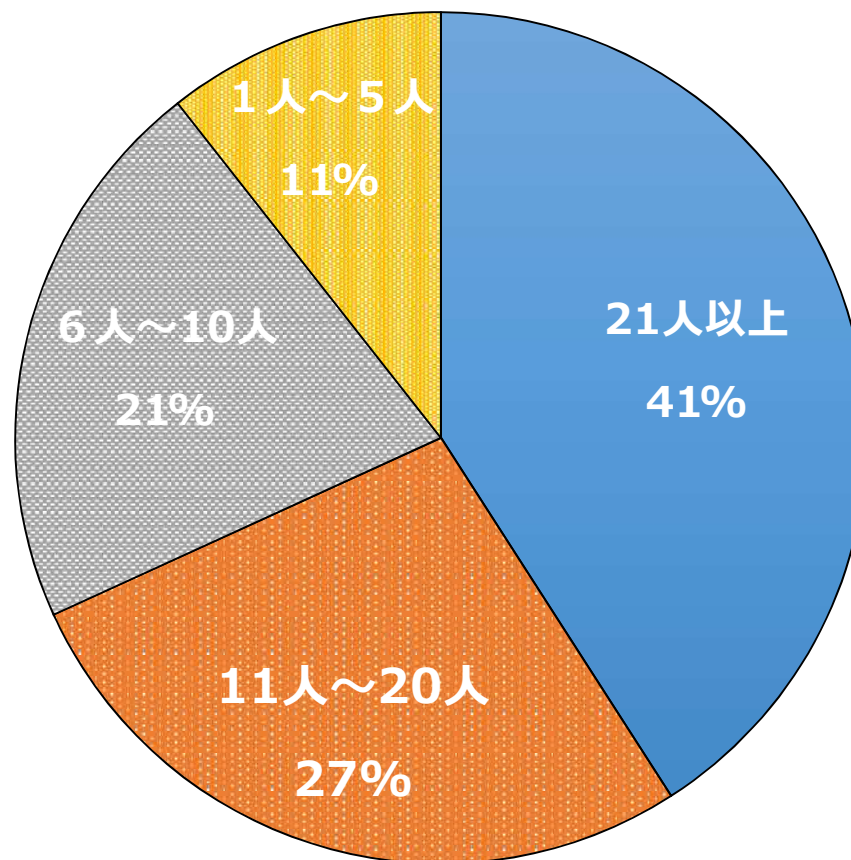


(n=66)

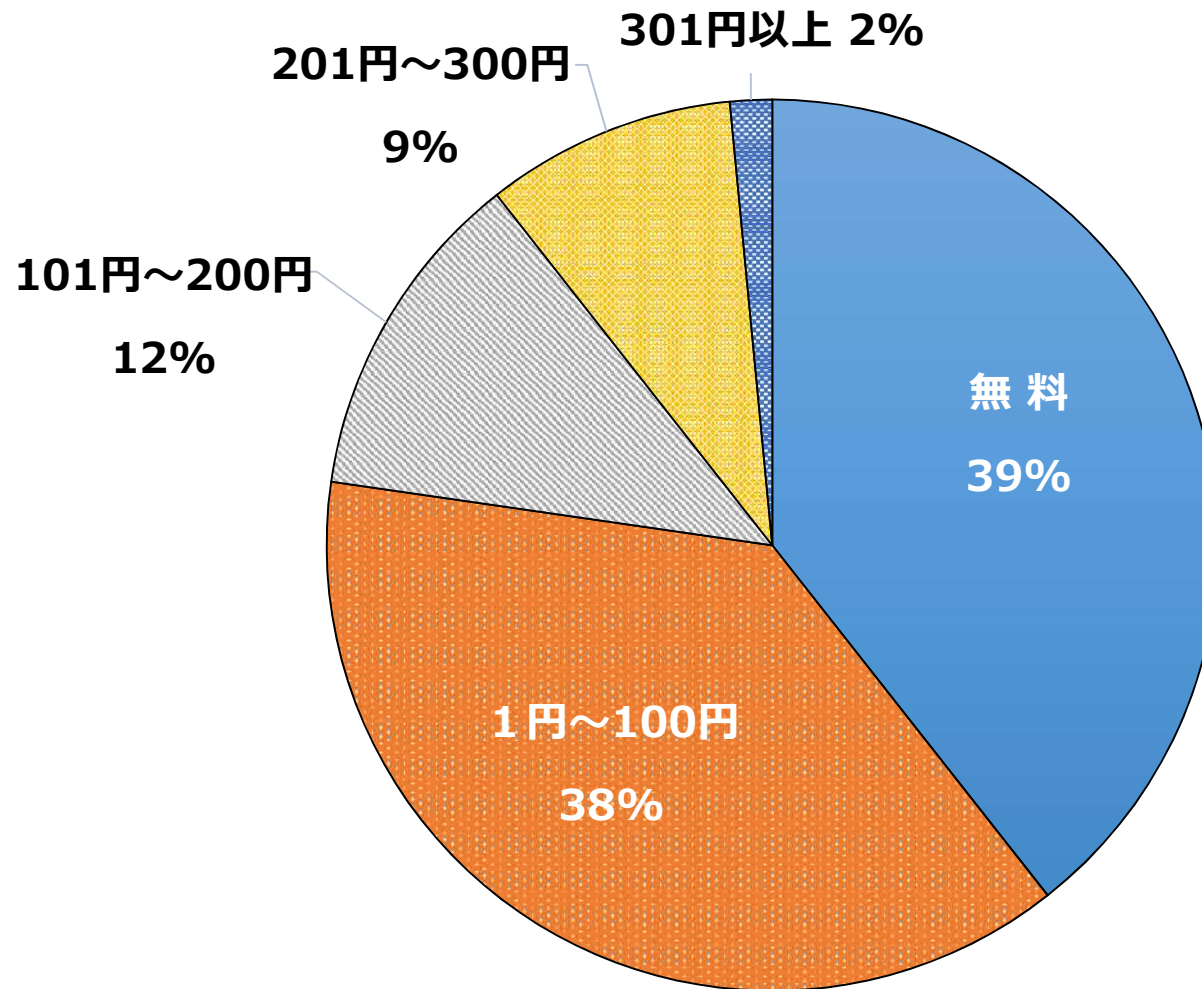
◇ 開催曜日を教えてください。



◇ 子どもの平均利用人数を教えてください。



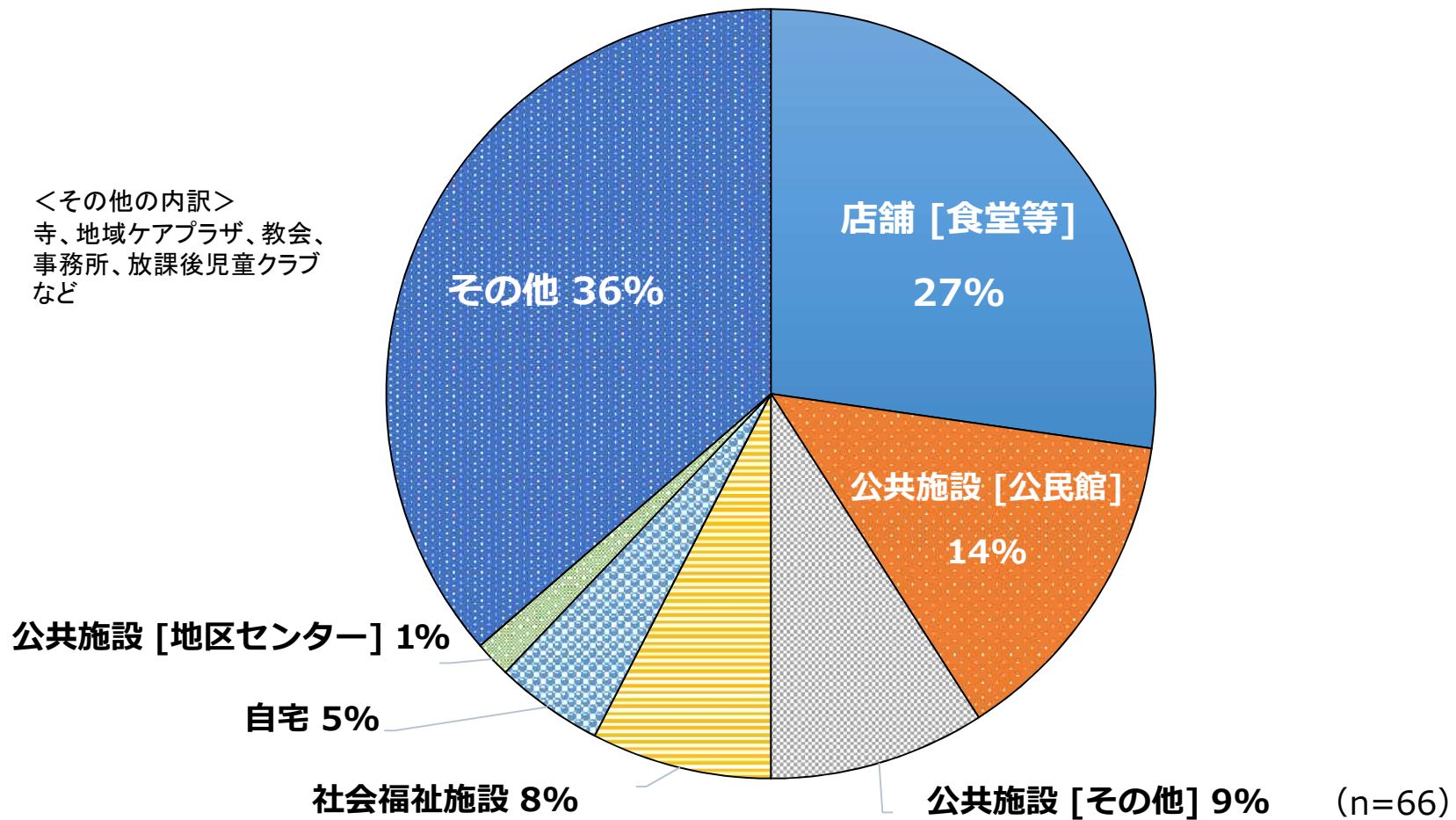
◇ 子どもの参加費を教えてください。



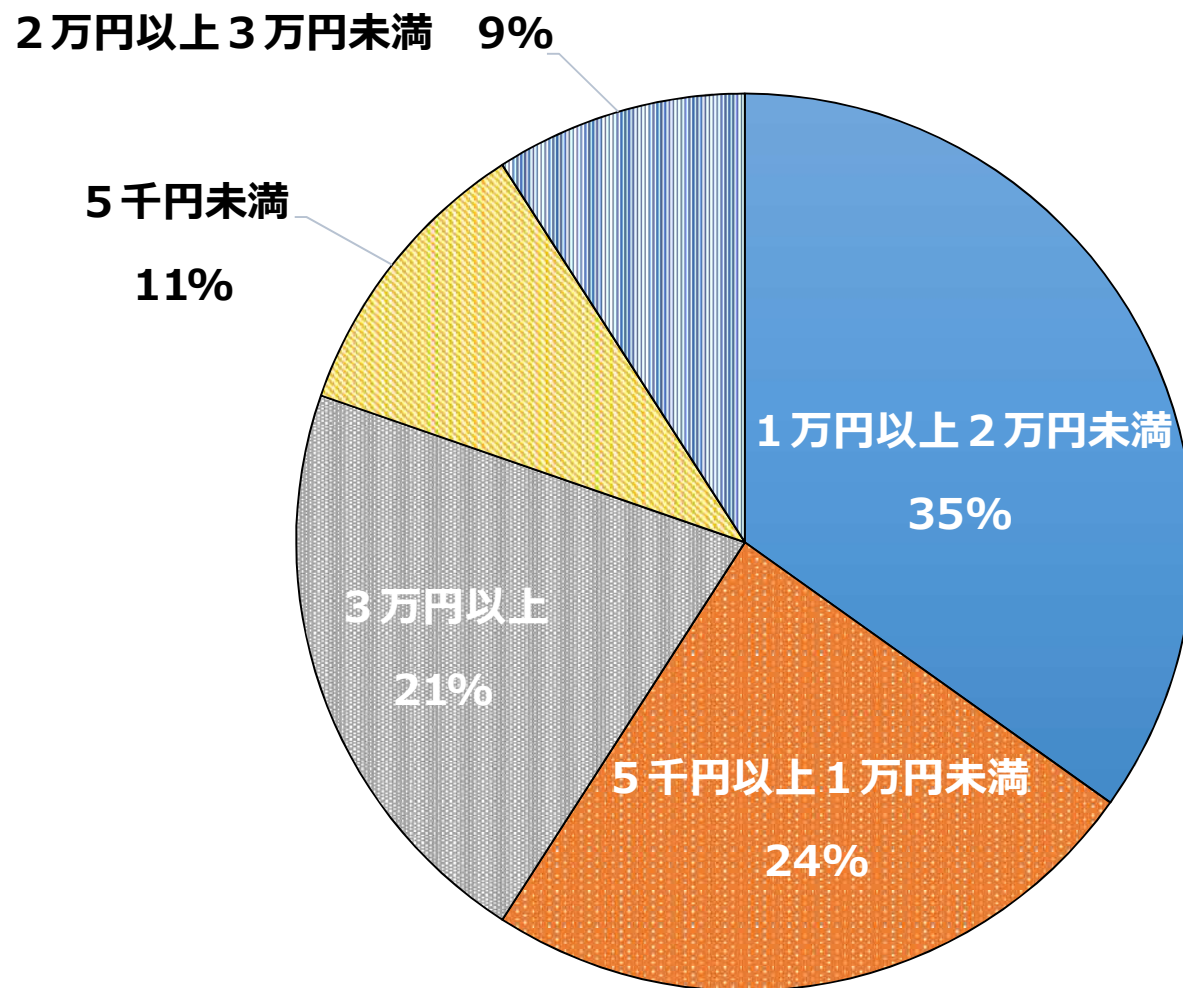
(n=66)

2 活動の状況について

◇ 現在の主な施設拠点を教えてください。

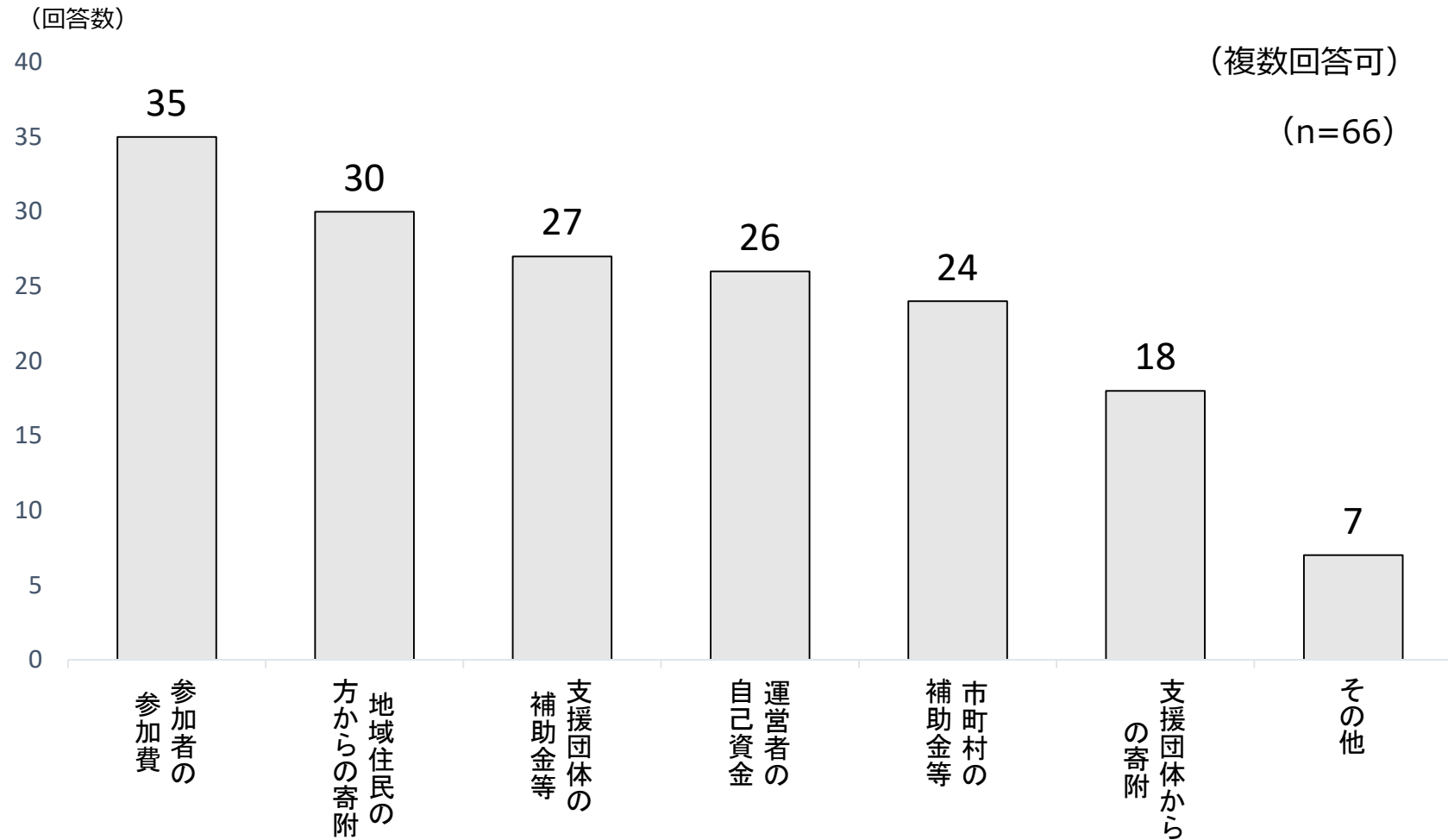


◇ 1か月あたりのおよその開催経費を教えてください。



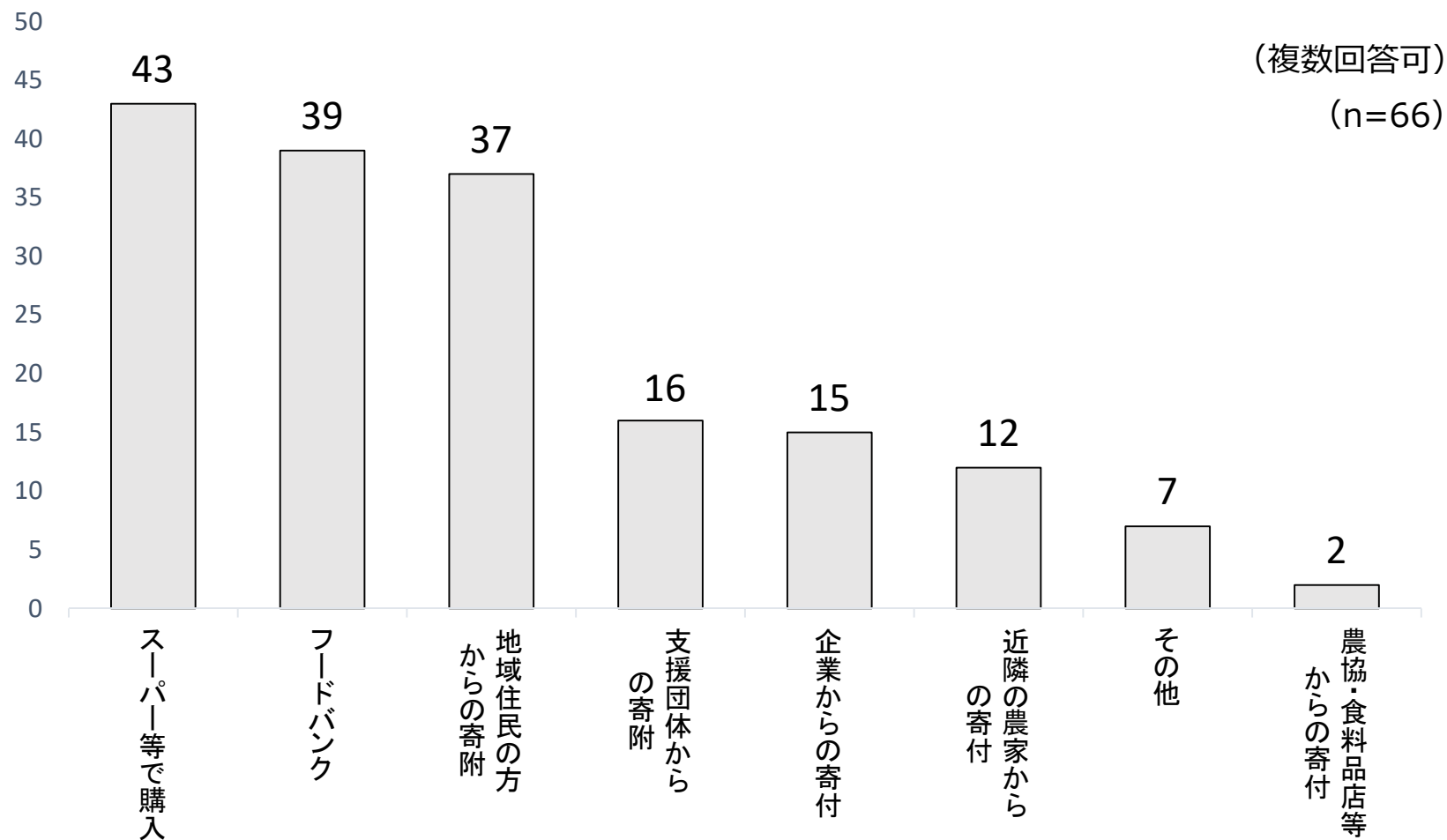
(n=66)

◇ 主な活動財源を教えてください。

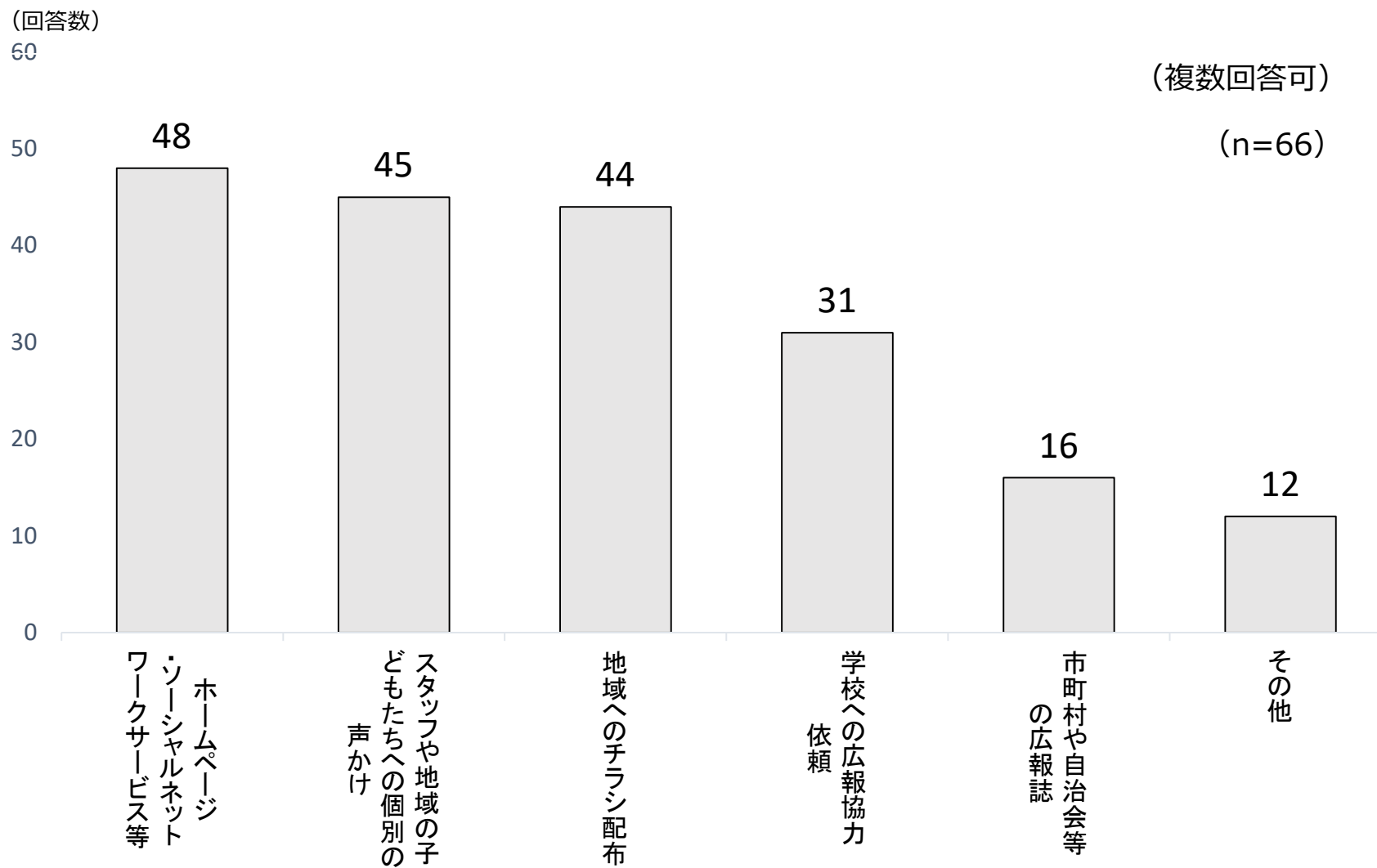


◇ 食材の調達先を教えてください。

(回答数)

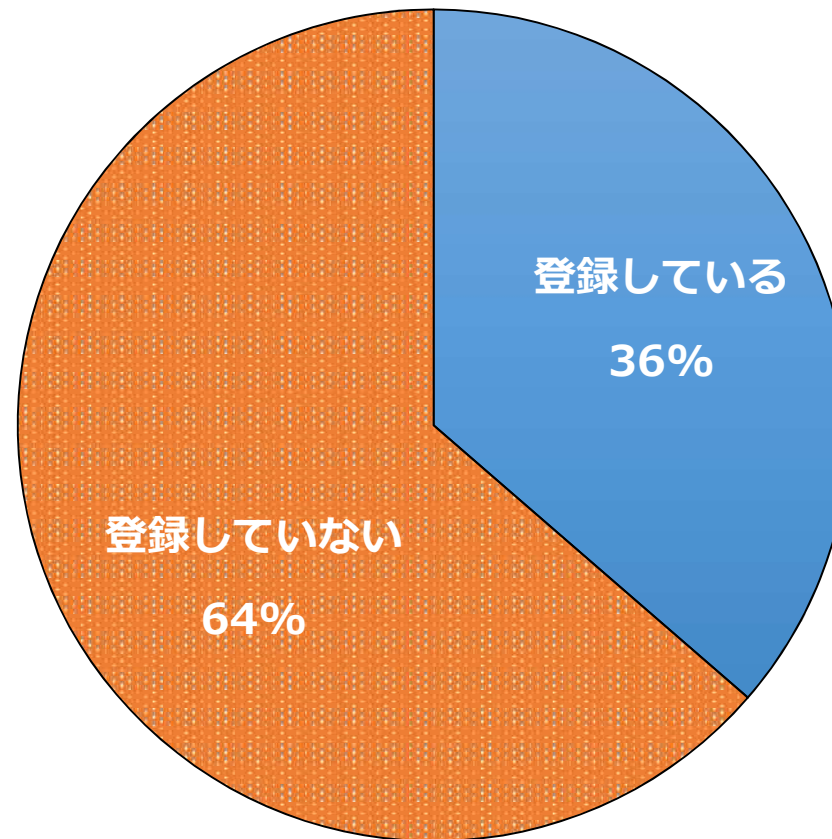


◇ 開催周知の方法を教えてください。



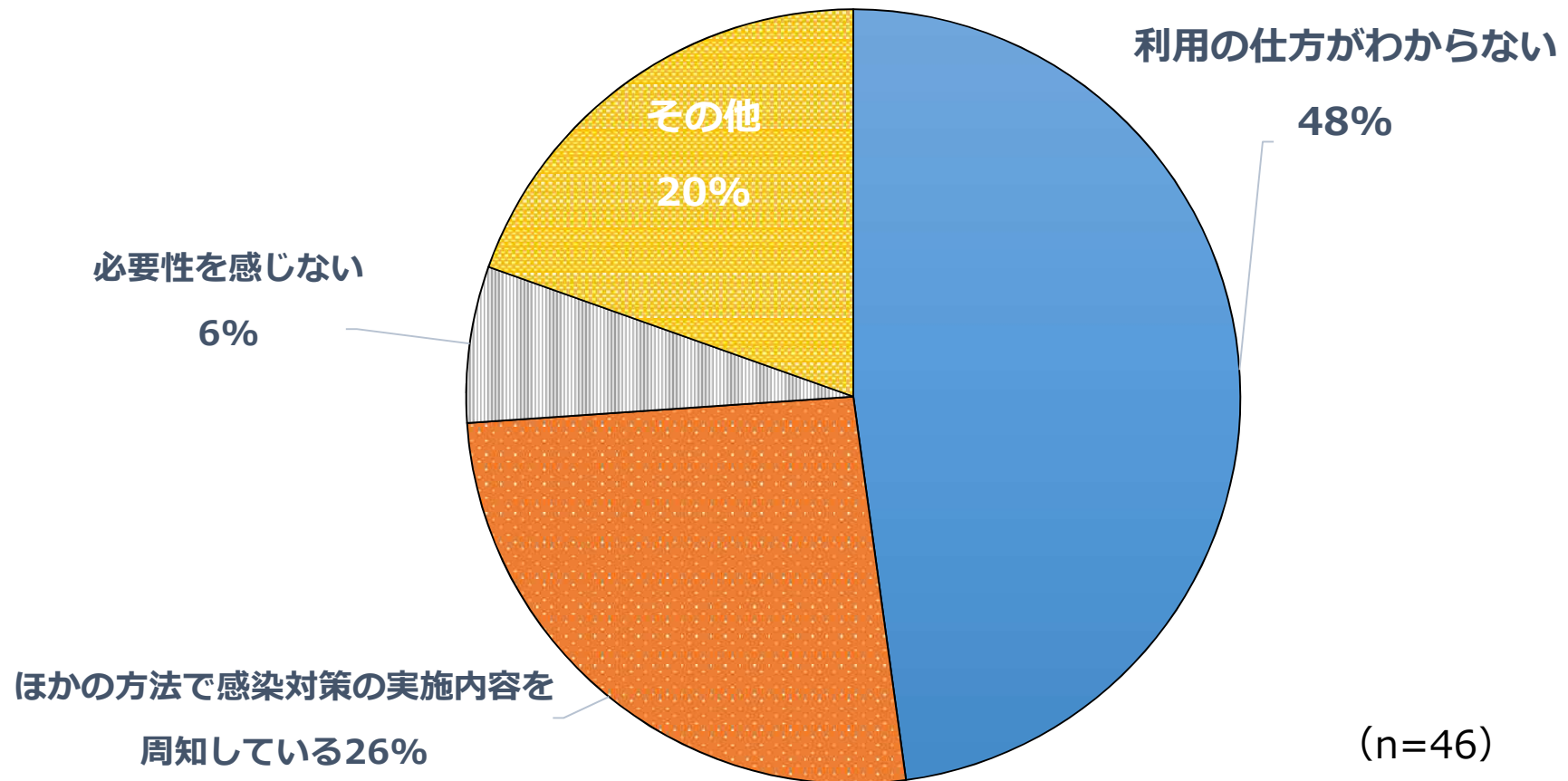
3 感染対策の取組みについて

- ◇ 現在県が発行する「感染防止対策取組書」の登録をしていますか。



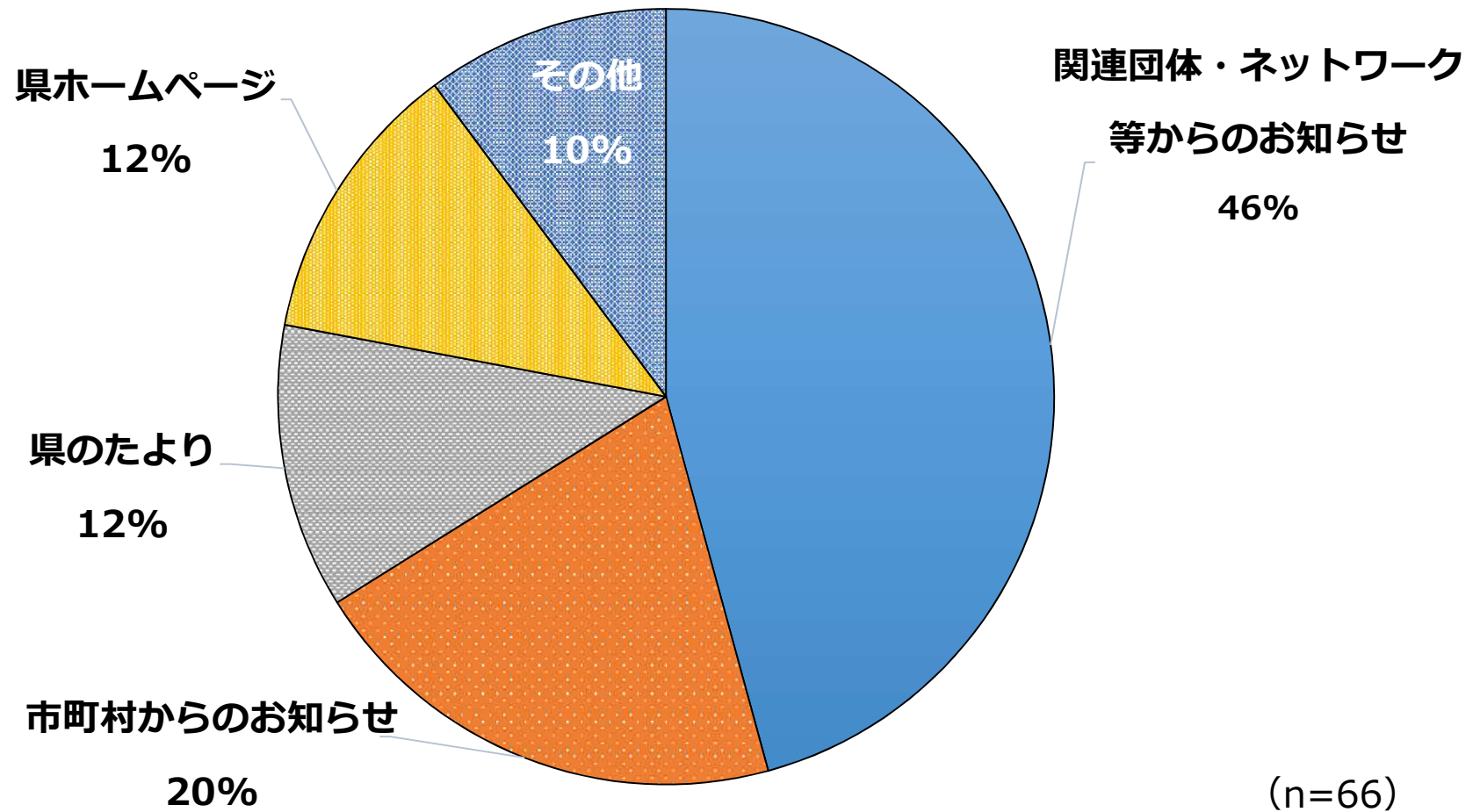
(n=66)

◇ 利用していない場合、その理由をお教えてください。

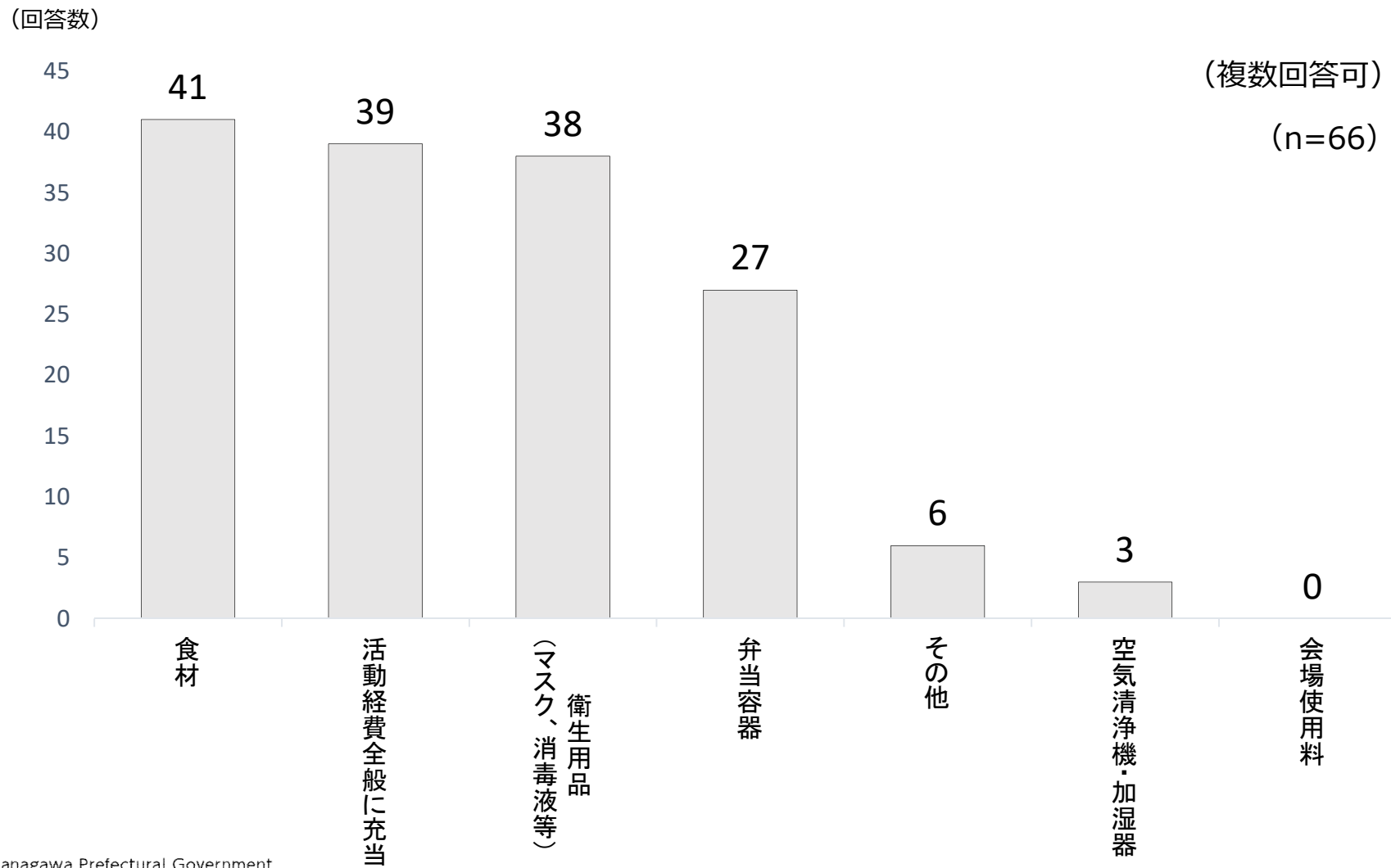


4 協力金事業について

◇ 子ども食堂応援事業をどこで知りましたか。



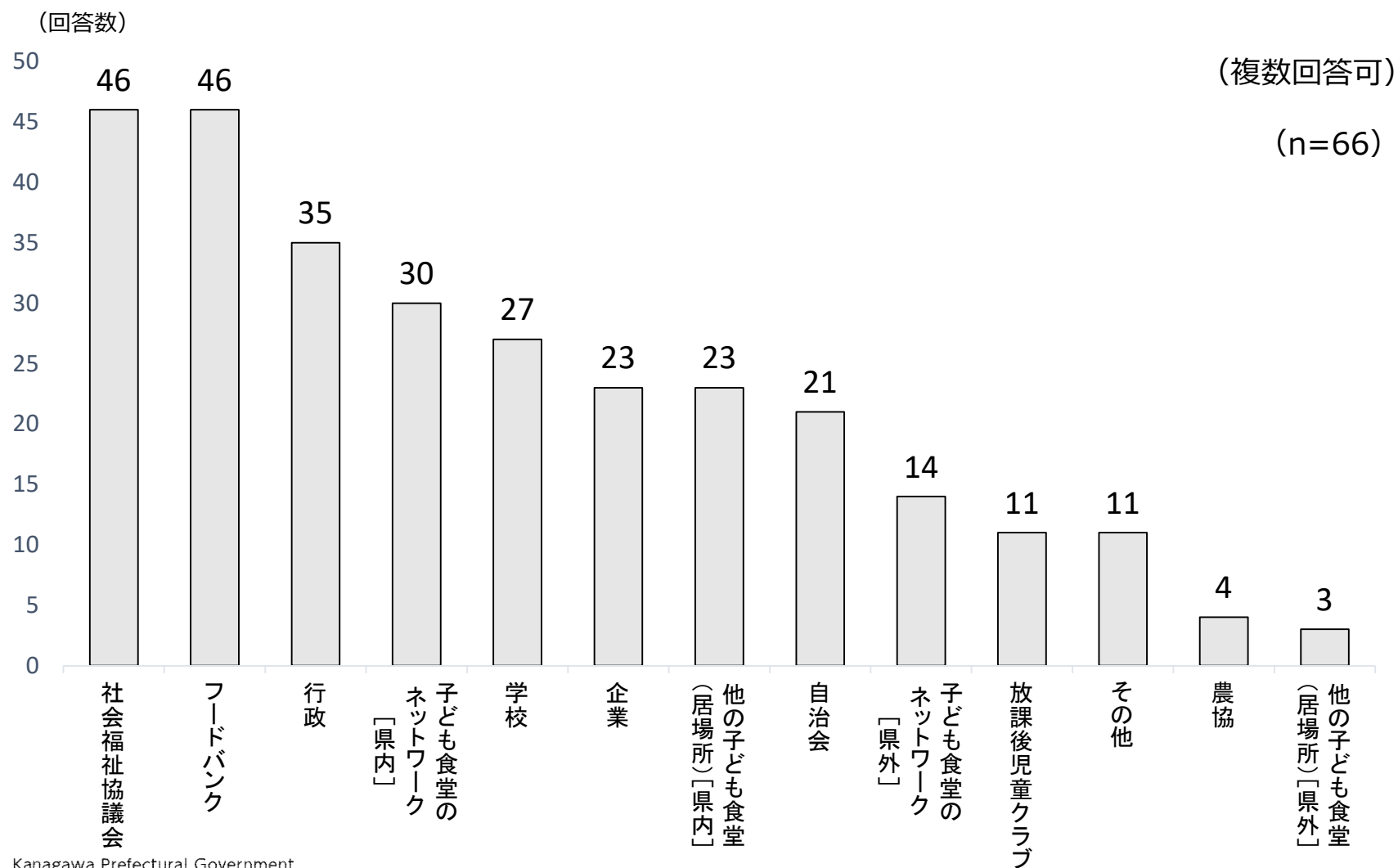
◇ 協力金の主な活用用途を教えてください。



5 各団体等との連携について



活動にあたって連携している団体・ネットワークを教えてください。





今後連携したいと考えている団体・ネットワークを教えてください。

(回答数)

40

34

31

29

26

26

24

23

22

20

19

10

7

5

0

学校

放課後児童クラブ

行政

企業

農協

自治会

フードバンク

社会福祉協議会

子ども食堂の
ネットワーク
〔県内〕

他の子ども食堂
〔居場所〕〔県内〕

子ども食堂の
ネットワーク
〔県外〕

その他

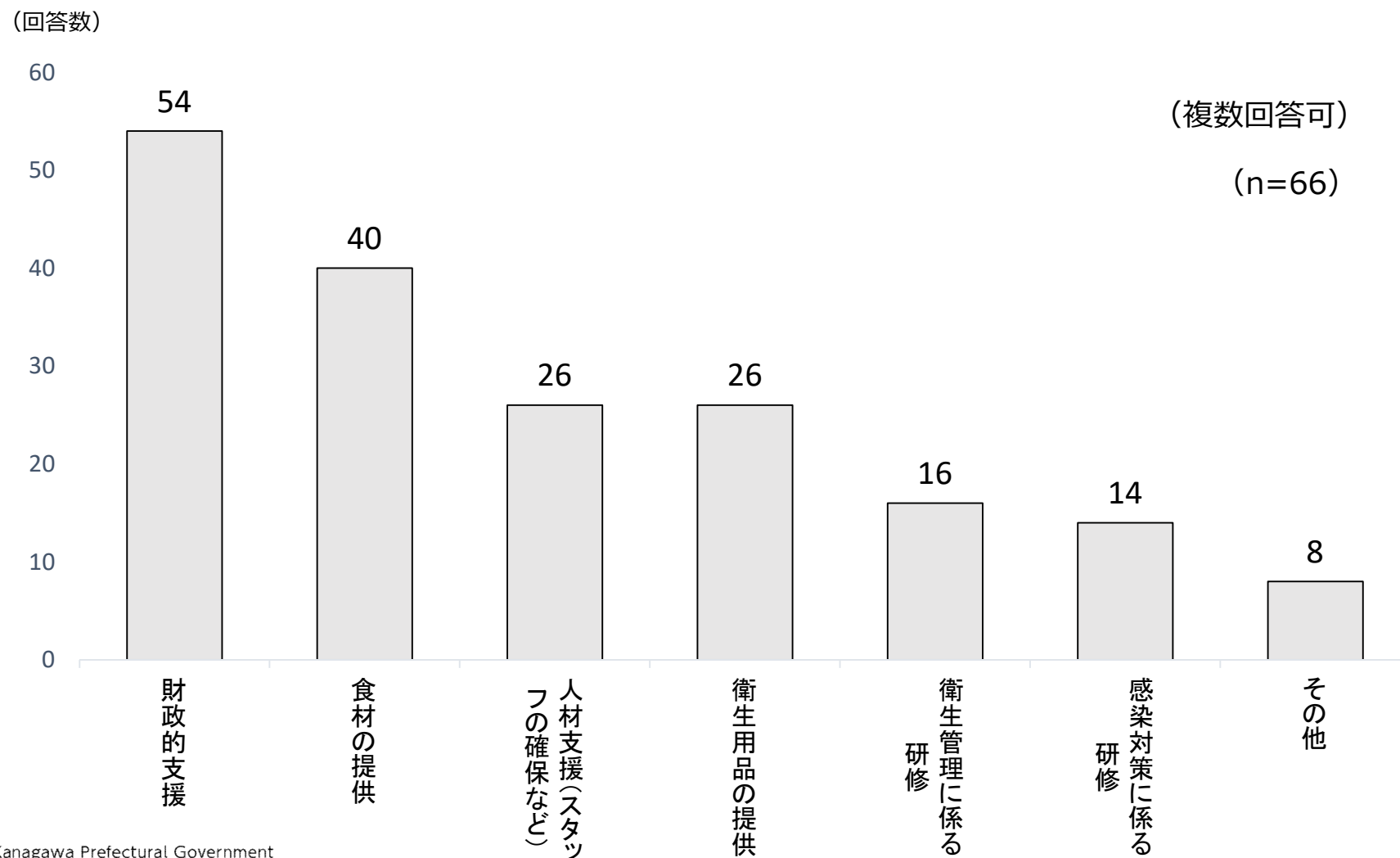
他の子ども食堂
〔居場所〕〔県外〕

(複数回答可)

(n=66)

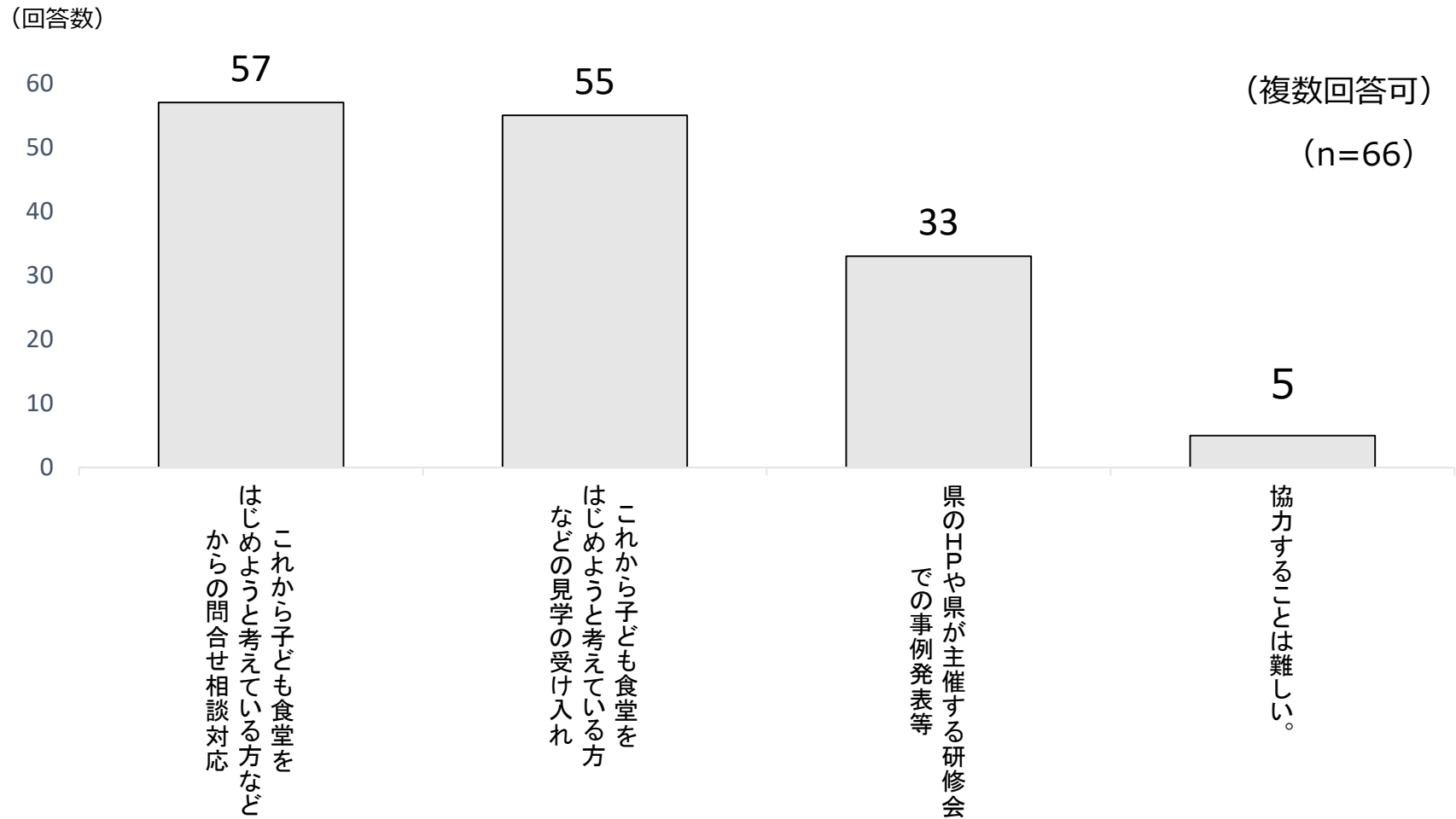
6 必要とする支援について

◇ 活動にあたり、必要としている支援はどんなことですか。



7 これから子ども食堂をはじめようと考えている方など
からの問合せ相談対応等について

◇ 令和3年度以降、以下の取組みに貴子ども食堂として御協力いただくことは可能でしょうか。



8 その他（自由記述） ※ 一部文言の加筆・修正等を行っています。

活動の現状	
1	1月より、感染拡大に防止のため、テイクアウトで無料配布することにしました。3月まで予定。
2	月1回の開催で、毎回予約が殺到しますが、これ以上の開催が難しい状況です。回数増の希望にお応えできていません。
3	ニーズが高まるにつれ、参加者が増えました。赤字の採算しかない子ども食堂で、必要な機材や食器を揃えるのが困難です。
4	子ども食堂を核として、地域の皆さんが気軽に集いコミュニティが形成できるプラットフォーム作りを目指しています。
5	お寺の住職夫妻がご高齢のため、お寺での開催を控えております。また代替の場所も見つけることができず、もどかしい気持ちで過ごしています。
6	子ども食堂をやっておりますが、学校や行政との連携が厳しいです。また、同じような取り組みを行なっているNPOなどとの連携が難しいです。子どもの健全な成長のために、関係機関が足並みを揃えることが難しいと感じております。
7	実質的な開始がコロナ禍であり、試食会と他1回開催できました。しかし、会場定員40名のところが20名に制限され、子どもの人数が20名以下となります。その後、公共施設での飲食ができなくなり、現在は開催日に食料配布を地域やフードバンクの支援を頂き実施しています。
8	「子ども食堂だからこそ安心安全な食材を使う」ということを大切に考えています。フードロスの解決と食材提供が結びつけられていることがありますが、子どもの食べ物として適切かどうかという視点で食材を選ぶことも必要だと思っています。
9	コロナ禍の中で生活している子どもたちのことが心配なのはもちろんですが、その生活を支えている大人たちの生活力の低下を危惧しています。スタッフたちもこうした活動をする以前に自分たちの暮らしがあります。また今まで協力してくれていた調理ボランティアの方も高齢のため、前回の緊急事態宣言からずっと寺子屋への足が遠のいています。子どもの豊かな学習の一助になればと頑張っていますが、各スタッフとも日に日に疲労が濃くなっているように感じています。
10	コロナ禍でもいち早く食堂をテイクアウト仕様で再開させて半年経ちますが、なかなか終息が見えず、不安な状況です。しかしながら、我々としては方式も徐々にアップデートしていき、自己流ではありますが「(限りなく)非接触型」として現状やっています。地域の方々からもっと周知を頂くには、とにかく発信する、続けるということが大事なのだなと感じております。今後ともよろしく願い申し上げます。
11	コロナ流行以前はみんなで集まって他の家族とも一緒に食べることで、子育て家族の居場所づくり、食育、子育て支援を趣旨とした活動をしていました。安心安全な食材を使った手作りの食事は好評でした。コロナ以降は集まったの食事は難しいのでお弁当のテイクアウトに形態を変えて継続しています。現在もスタッフはコロナ対策、衛生管理の徹底など緊張感をもって活動しています。お弁当用のパック材や消毒や衛生管理関連のグッズの購入が必要となり、寄付金や県からの支援金などはとても有難く、活動の継続につながっています。
12	子どもの参加を促す宣伝の仕方を工夫していかなければならない。また、高齢者の一人暮らしの方などや幼児を連れた親などにも知られるようになってきましたが、昨年10月から月1回で始めているこの会も緊急事態宣言下においては、薬局という活動場所もあり、中止をすることで少しでもリスク回避に努めています。何とか続けていくためにも、スタッフなどの衛生観念の啓発につとめ、開催日には徹底した消毒などに努めています。提供する五目寿しは伝統的日本のレシピですが、たんぱく質も加味したこのようなレシピをぜひ知ってもらいたいと思っています。
13	昨年の3月から、お弁当での対応に切り替えて、活動を継続しています。これからも、お弁当を配布し、コロナ禍を乗り越えていきます。いままでは、コミュニティ作りを軸を置き、楽しい交流がメインの食堂でしたが、今後は、お弁当をお渡しするわずかな時間に、情報交換をしながら、子どもたちの様子、お母さんたちの様子を確認し、必要とする方々に、しっかり届けられるように、努力して参ります。お弁当の配布の利点を生かして、セントラルキッチンを目指します。
14	コロナ禍だからこそ、地域で支援が必要な方や支援が必要になった方だけでなく、誰もがバランスのとれた食を通じた居場所が必要と感じています。独自に感染症予防を徹底し、新たな様式で運営を継続していますが、感染症が収まらない限り、必要な支援や居場所を作ることは難しいのが現状です。今だからこそ、情報連携など助け合いが必要だと感じています。
15	今後子ども食堂に来られている方以外にも働きかけ、子育ての悩みを聞いたりワークショップもできたらと考えています。

県への要望	
16	こども食堂の開催ができる状況ではないので、食品配布会を開催しています。その中で、調理したものを配布もしていますが、その商品代の購入に使える資金があると助かります。
17	今後ひとり親家庭をはじめ生活困窮者へお弁当の無償配布を進めたいので、次年度も助成金を考えてほしい。
18	区役所の生活困窮者や母子・父子家庭が訪れるところで、こども食堂のチラシを渡すなどして欲しい。
19	教育行政、福祉行政と連携し本当にニーズのある子ども達が漏れなく受援出来るしくみが欲しい。 子どもの権利として食、コミュニティ、居場所、サポート体制について県で条例を作り、体現する施設、相談体制へのアクセシビリティを高める仕組み作りを徹底するべき。 母親、一人親支援を最新の知見を生かして充実させるべき
20	コロナ禍ではかなり迷いながらの開催となり、スタッフ側でも意見が分かれるところです。行政からの指導なり支持がはっきりと出されればと思います。各団体への判断はボランティア活動としては荷が重すぎます。その判断を行政がおこなってくれればと思います。
21	こども食堂を立ち上げる際、地元の食品衛生課に相談に行くようになっていますが、現在神奈川県では、届出（いわゆる子ども食堂として扱う）を受け付ける団体はNPO法人、社会福祉法人に限定されているようです。 子ども食堂を開催している団体は、これに該当しない団体が多いように思えます。 保健所の食品衛生課の考えと子どもみらい部のお考えに違いがあるように思えます。登録する担当課を変更してもらいたい。
22	COVID-19の緊急事態宣言の最中、こども食堂を実施していいのか？しない方がいいのか判断しにくいです。保護者からは子どものイベントがなくなっている今、どのような形でもいいので開催してくれるのはありがたいとのメールが届いています。しかし子どもの場合、無症状のまま参加して、スタッフに感染させる場合が想定されます。また、対象者の中には生活困窮者も見受けられます。スタッフ全員が65歳以上なので、子どもの健康と共に、スタッフの感染予防も担保する必要があります。開催の可否が分かる判断基準などがあれば大変ありがたいです。
23	大人達に余裕がなくなり、そのしわ寄せは子どもに来るのではないのでしょうか。 学校はオンライン化され、子どもが学校に行くかどうかの選択ができるようになってくると、今後は心の拠り所となる「居場所」の役割が重要になってくると考えております。 このときに課題となってくるのが、運営する人材ですが、ボランティアで平日、昼間から動けるとなると、限られてきます。かといって、NPOを立ち上げるとなると負担が大きいです。このような近い将来に必要なとなる可能性のある対策や支援についても視野に入れていただけると嬉しいです。
24	うちに来ている子は、ほとんどが海外ルーツの子なので、こども食堂に限らずコロナなどに関わるもろもろの情報提供もして来ていますが、どの情報も翻訳資料がなくて困っています。重要な情報は外国人でもすぐにわかるようにしてもらえると助かります。
25	助成金を20万ぐらいの上限であまり時間をかけない審査にして欲しい。現在フードパントリーとお弁当配布で活動を行っているけれど、お弁当はやはりお金がかかる。他所で買ってくるから。 調理室が密にならないようにとか、人の出入りがどうしても多くなるので現在ケアプラザ前の軒下で活動している。 コロナ対策とするとこれで良いと思っている。フードパントリーについては今よりもっとお客さんが増えたら、助成金を貰わないととても出来ない。
26	助成金や協力金の申請が、必要な内容は押さえた受けで、簡略化できると助かります。特に企業等の一時的な支援より、継続した支援を望みます。こども食堂等に特化した食品衛生講習会等の開催があると助かります。コロナ禍で本当に困っている人(行政につながれない人も含む)へこども食堂に来てほしいのですが、アプローチの仕方がわからず苦慮しています
27	ご支援感謝しています
28	この度はアンケートのご案内をいただきましてありがとうございます。子ども食堂は継続して活動いたしますので今後ともよろしく願いいたします。
29	コロナ禍の中、クラスターの恐怖、不安の中で活動しています。先行きの見えない中での活動ですが、どんな形でも月1回を続けていこうと思っています。今回いただいた協力金はエールをいただいたようで嬉しかったです。

30	今回のような応援事業を来年度も続けてほしい。別の地域で（二か所）実施しているので、それぞれに支援して頂けると助かります。
31	昨年は県より協力金を頂きありがとうございました。これからも コロナ禍での子ども食堂の運営の仕方を考えながら、続けていきます。宜しくお願い致します。

(調査対象一覧)

市町村	区 名	調査対象 (者)
横浜市		25
	鶴見区	2
	西区	2
	中区	3
	保土ヶ谷区	1
	磯子区	4
	金沢区	1
	旭区	1
	瀬谷区	3
	栄区	2
	泉区	3
	青葉区	3
川崎市		9
	幸区	1
	中原区	6
	高津区	1
	多摩区	1
相模原市		8
	緑区	1
	中央区	3
	南区	4
横須賀市		6
平塚市		6
鎌倉市		4
藤沢市		5
小田原市		4
茅ヶ崎市		3
秦野市		3
厚木市		2
大和市		2
伊勢原市		1
南足柄市		1
綾瀬市		1
葉山町		1
寒川町		1
大磯町		2
二宮町		1
中井町		1
開成町		1
箱根町		1
		計 88